

2026年6月12日

韓国の雇用環境は現役世代を中心に急激な冷え込み (Asia Weekly)

～失業率は横ばいで推移するも、労働市場からの退出が進む動き～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/5(金)	(インド)1-3月実質 GDP(前年比)	+7.8%	+7.2%	+8.0%
6/9(火)	(韓国)1-3月実質 GDP(前年比・改定値)	+3.8%	--	+3.6%*
	(中国)5月輸出(前年比)	+19.4%	+15.0%	+14.1%
	5月輸入(前年比)	+27.4%	+25.0%	+25.3%
	(台湾)5月輸出(前年比)	+51.7%	+37.9%	+39.0%
	5月輸入(前年比)	+54.9%	+37.4%	+29.2%
6/10(水)	(中国)5月消費者物価(前年比)	+1.2%	+1.3%	+1.2%
	5月生産者物価(前年比)	+3.9%	+3.8%	+2.8%
6/11(木)	(韓国)5月失業率(季調済)	2.8%	--	2.8%
6/12(金)	(マレーシア)4月鉱工業生産(前年比)	+8.2%	+4.0%	+3.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

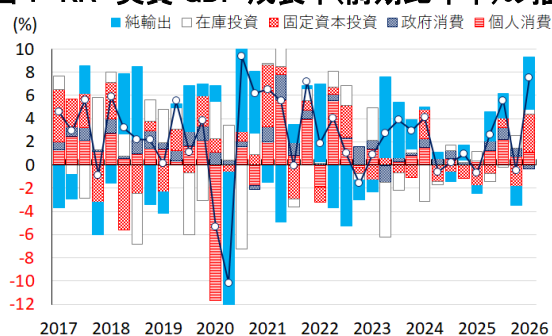
[韓国]～5月失業率は横ばいで推移するも、現役世代を中心に雇用を取り巻く環境は急速に冷え込む～

9日に発表された1-3月期の実質GDP成長率(改定値)は前年同期比+3.8%となり、先月発表された速報値(同+3.6%)から0.2pt上方修正された。前期比年率ベースの成長率も+7.53%と速報値(同+6.95%)から上方修正されており、2020年7-9月期以来の高い伸びとなっている。財輸出のみならずサービス輸出が大幅に上方修正されたことに加え、個人消費もわずかに上方修正される一方、企業の設備投資や不動産投資などの固定資本投資はわずかに下方修正された。内需・外需ともに、速報値の段階に比べて力強く経済成長をけん引していることが確認された。その一方で、在庫投資による成長率寄与度も前期比年率ベースで+0.45ptと速報値(▲0.20pt)から上方修正されており、在庫の積み上がりが足元の景気拡大を下支えする動きもみられる。

11日に発表された5月の失業率(季節調整済)は2.8%となり、前月(2.8%)から2ヵ月連続で横ばいに推移している。失業者数は前月比+1.7万人と前月(同+1.7万人)に続いて増加しており、中期的な基調も増加に転じる動きを見せている。年代別では、50代でわずかに減少する動きがみられるものの、10代や20代といった若年層のみならず、30代や40代などの現役世代を中心に増加している。一方、雇用者数は前月比▲9.5万人と前月(同▲11.7万人)に続き3ヵ月連続で減

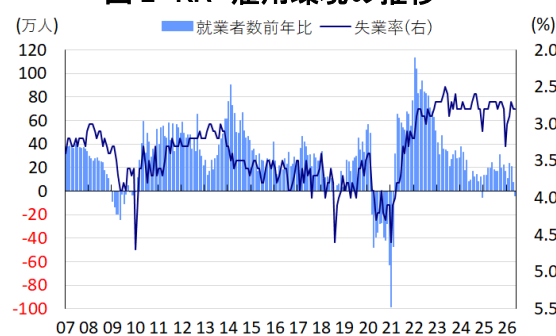
少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど調整圧力が強まっている。年代別にみても、60代以上ではわずかに増加しているものの、50代以下のすべての年代で減少しているほか、若年層を中心に減少ペースが加速する動きもみられる。雇用形態別でも、非正規雇用、正規雇用を問わず一般的に減少しており、中東情勢の緊迫化が長期化するとともに幅広い経済活動に悪影響が及ぶなか、雇用を取り巻く環境は厳しさを増している。こうした状況を反映して、労働力人口は前月比▲0.8万人と前月（同▲1.0万人）に続き3ヵ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じている。また、多くの年代で減少が確認されるなど、労働市場から退出する動きが広がりを見せている。10代や20代といった若年層の5月の失業率は6.6%と前月（6.1%）から0.5pt悪化したとみられ、雇用環境悪化の影響が若年層に色濃く現れている様子が見えてくる。

図1 KR 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

図2 KR 雇用環境の推移

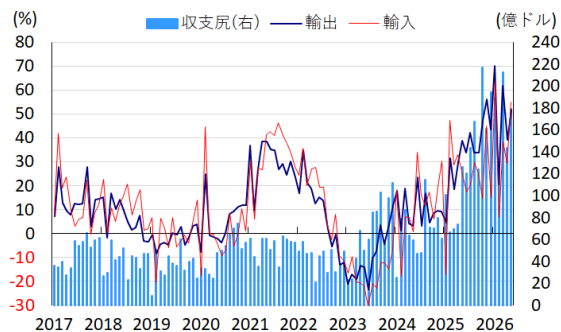


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[台湾]～輸出入ともに持ち直しの動きが確認されるとともに、月次ベースで過去最高額を更新している～

9日に発表された5月の輸出額は前年同月比+51.7%となり、前月（同+39.0%）から伸びが加速した。前月比も+11.9%と前月（同▲10.5%）から2ヵ月ぶりの増加に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど持ち直しの動きを見せており、月次ベースの輸出額は過去最高を更新した。財別では、主力輸出品である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連の輸出が旺盛な推移を見せるとともに、中東情勢の緊迫化を受けた原油高を反映して石油製品関連の輸出額も押し上げられた。さらに、金属関連やプラスチック関連の輸出も堅調に推移するなど、総じて輸出は拡大している。国・地域別では、米国向けや欧州向け輸出の勢いは鈍化しているものの、最大の輸出相手である中国本土向けや日本向けをはじめとするアジア向け輸出の旺盛な伸びが全体を押し上げている。一方、輸入額は前年同月比+54.9%となり、前月（同+29.2%）から伸びが加速した。前月比も+9.5%と前月（同▲4.7%）から2ヵ月ぶりの増加に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど持ち直しの動きを見せており、月次ベースの輸入額は過去最高を更新した。財別では、旺盛な輸出を反映して機械製品関連の輸入が堅調な推移を見せるとともに、原油高を反映して原油や石油製品関連の輸入額が大幅に押し上げられたほか、化学製品やプラスチック製品関連の輸入も底堅く推移している。その結果、貿易収支は+179.06億ドルと前月（+143.50億ドル）から黒字幅が拡大した。

図3 TW 貿易動向の推移

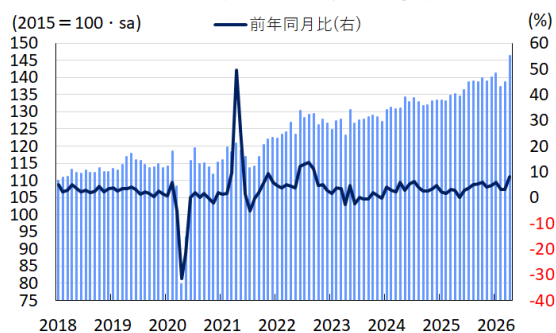


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[マレーシア]～鉱業、製造業ともに生産拡大が進み、景気は持ち直しの動きを強めている模様～

12日に発表された4月の鉱工業生産は前年同月比+8.2%となり、前月(同+3.1%)から伸びが加速した。前月比も+5.49%と前月(同+1.09%)から2ヵ月連続で拡大するとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど、持ち直しの動きを強めている。中東情勢の緊迫化に伴う商品市況の上昇を背景に、天然ガスを中心とする鉱業部門の生産が大幅に拡大している。また、世界的なAI(人工知能)関連投資の活発化を追い風に、主力輸出品である半導体などの電子部品や電気機械関連を中心に、製造業の生産も堅調な伸びを示している。さらに、幅広い経済活動との連動性が高い発電量も3ヵ月ぶりに増加へ転じており、足元の景気が持ち直しの動きを強めている様子がうかがえる。

図4 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以上